

次号予告

- 特集 シンポジウム／チーム医療の人間関係
 リハビリテーションにおけるチームワークの特性
東大病院 上田 敏
 チームワークの問題点 (PT の立場から)
産業医科大病院 大峯 三郎
 チームワークの間頭点 (OT の立場から) (身障)
横浜市立大病院 関谷 修
 チームワークの問題点 (OT の立場から) (精神)
国立武蔵療養所 大塚 信行・他
 総合討論／チーム医療の人間関係を考える
 大峯 三郎・関谷 修・武岡 道子・嶋田 勝英・奥川 幸子
 上野 智子・(司会) 上田 敏
- とびら 老人のリハビリテーション雑考.....東大・老人科 江藤 文夫
 講座 痴呆 1. 痴呆の病態生理京都大・神経内科 中村 重信
 プロGRESS 神経再建術.....東京都立墨東病院 長野 昭
 あんてな 第15回リハビリテーション世界会議に参加して
川崎医科大 明石 謙

編集後記

第9回「理学療法・作業療法」賞の懸賞論文の入賞おめでとうございます。入賞が一論文、準入賞が二論文となりました。

未発達だった PT・OT 分野で、研究の奨励も目的としてはじめられたこの懸賞論文も、9回目となった今年度は、論文数も増え、優れたものが多く、我が国における PT・OT の足も地についてきた現れかと思う。

“電気刺激による 大腿四頭筋強化”に関する浦辺論文の実験は、啓発的な内容であり、今後、臨床的適用について、従来の方法との比較検討、適用の規準まで、是非、研究を進展させて頂きたい内容である。

とかく、一人一人を大事にする臨床家の視点からすれば、進藤氏・他の“脳卒中の理学療法プログラムの検討”のように、統計的处理による全体の傾向のみから、すぐに自分の患者さんのプログラムに採用したいとは思わないだろうが、このような第三者的なまとめ方は、時として、今まで気づかなかった一つの興味ある視点を示唆して

くれるものである。

演出氏・他の電気刺激の鎮痛機序の解明を目的とした論文は、動物実験によるものでははじめての応募で、編集委員会でも、その扱いにいささか戸惑ったが、論文内容をみて審査した。

脳性麻痺の特集は、生活動作指導にポイントを置いてお願いした。異常姿勢・動作と自立度との板ばさみで苦慮しておられる方も多いと思うが、書きにくいテーマにもかかわらずまとめて頂き感謝している。これらの論文を足掛に、生活指導に関する具体的な意見の交換がひろがること期待したい。

講座の、河内氏による“認知のメカニズム”、板山氏の“障害者福祉施設の現状と課題”は、それぞれ貴重な資料および10月1日改正の身体障害者福祉法などの、新見も教示頂き、日常遠くなりがちの大事な基礎知識として勉強されたい。

師走の繁雑さの中で、新年に向けての踏み石は残したいものである。(福屋 靖子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長
 五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長
 砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長
 津 山 直 一
国立身体障害者リハビ
リセンター病院院長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
 荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ンクリニック高島平
整形外科
 大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター
 寺 山 久美子
都心身障害者センター
 富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大
 奈 良 勲
金沢大学医療技術短大
 福 屋 靖 子
筑波大学
 松 村 秋
都養育院リハビリ部

<編集同人>

池 松 洋 子
伊 東 元
岩 崎 テル子
宇都宮 初 夫
金 子 誠 喜
鎌 倉 矩 子
木 村 信 子
菊 地 延 子
小 嶋 裕
斎 藤 みち子
鈴 木 明 子
高 橋 正 明
田 口 順 子
橋 元 隆
古 川 宏
松 沢 博
宮 崎 和 子
宮 前 珠 子
山 田 貞 雄
矢 谷 令 子

(担当 細田・西塚)